

## 今日の説教のポイント<創世記5章1~32節>

同じ表現がただ繰り返されているだけのように思える系図。しかし、そこここで、実に大事なことが言われています。

### ①「生き、そして死んだ」。アダムの罪の結果訪れたものがこれ

「生きて死ぬ」、これは当たり前のこと？ そうではありません。アダムは、「食べると必ず死ぬ」(2:17)と神様から言われた実を取って食べたのです。しかし、すぐには死にませんでした。今日の箇所には「930歳まで生きた」(5)とあります。しかし、やはり死んだのです！ 私たちはここに神様の憐れみと裁きの両面を見なければなりません。罪を犯す(神様という的を目がけて生きていない)私たちであるにもかかわらず、生を与えて下さった憐れみの面と、罪を犯すことへの裁きとして永遠には生きられない、すなわち死が訪れる裁きの面を。パウロが、「罪によって死が入り込んだ」(ローマ5:12)と語っているのはこのことです。

### ②神様と共に生きる時に、死もまた神様によって克服される！

「生き、そして死んだ」、と記されていない人物が一人います。エノクです。「エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった」(24)。「取られた」とは、死が訪れる前に生きたまま神様のもとに上げられたことを意味しています(預言者エリヤも。列王記下2:11)。ここに、死が克服される道が示されたのです。神様はなぜそうされたのか？ 「エノクが神と共に歩んだ」からです。パウロはこう言っています、「あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい」(コロサイ2:6)。神様が送られたキリストによる罪の贖いを信じ、キリストに聞き従って歩むこと。それが私たちに示された「神と共に生きる道」です。

### ③ノア(慰め)もやはり「神と共に歩んだ」人であった！

系図はノアで一旦閉じます。次の6章からいよいよ洪水物語で、ノアが鍵になる人物。神様はなぜノアを助けられたのか？ 聖書には、「その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ」(6:9)とあります。主を礼拝しながら生き始めたエノシュ(4:26)、神と共に歩んだエノクとノア。罪深い(神に聞いて生きていない)私たち。しかしだからこそ、神様と共に歩む時に、突破口が開かれるのです。